

## ICT の効果的な活用と活用場面について

厚真町立上厚真小学校  
阿部 巧

### ○ICT の活用についてのポイント

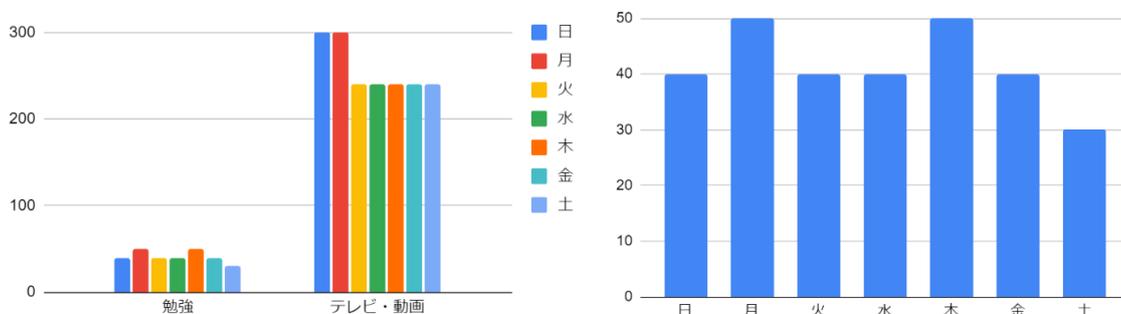
昨年度 1 人 1 台端末が導入され、本校においても試行錯誤を繰り返しながら、ICT の活用を進めてきました。その際に文部科学省の資料、「各教科等の指導における ICT の効果的な活用に関する参考資料」を参考に ICT の活用を進めています。その資料において留意点として次の 2 点があげられています。

- 資質・能力の育成により効果的な場合に、ICT を活用する。
- 限られた学習時間を効率的に運用する観点からも、ICT を活用する。

昨年度は ICT に児童も教師も「慣れる」ことを重視し、多くの場面で ICT を活用しました。現在は、その「慣れる」段階から、使用場面を精査し、考えなどを「共有」する場面や、今までは「できなかったことをできるようにする」ために活用しています。

### ○算数におけるグラフを描く学習

児童にとってグラフを描く活動は難しいものです。目盛りを読み取ったり、方眼紙の座標を正しく読み取ったりすることは特に難しいです。しかし、児童の思考を促すうえでも「どうして○○グラフが適切なのか」、「グラフを重ねるとどうなるか」など、高度なグラフ描画が求められます。この場面において、パソコンを活用することができます。右側のシンプルなグラフに対し、左側のように 2 つの項目を並べたグラフなどを一瞬で作ることができます。



### ○総合的な学習などで発表資料を共同で編集をする。

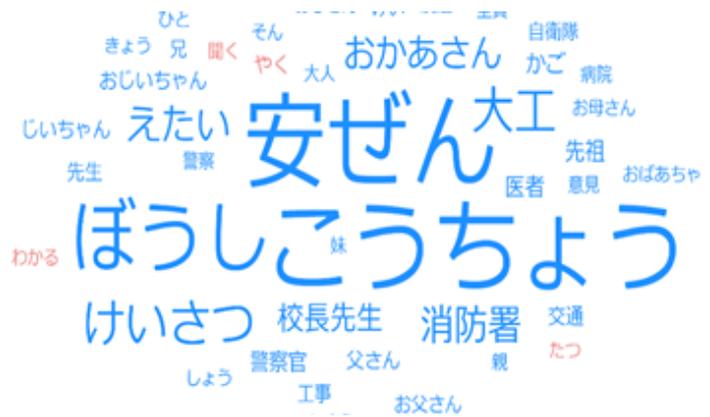
Google スライドを使うことで発表資料を同時に編集することが可能です。模造紙などの紙で資料を作成すると、一人しか作業をすることができません。しかし、Google スライドならグループ全員で同じスライドを共同で編集できるので、資料を効率よく作ることができます。

### ○Jamboard と思考ツール

Jamboard とはオンライン上でホワイトボードを使うことができます。Google スライドと同様に、共有することができるので、グループで利用することができます。その際に、思考ツールを JPEG など保存し、Google ドライブにアップロードしておけば背景に挿入することで、簡単に思考ツールを使うことができます。慣れてくると、児童が場面を判断し、適切な思考ツールを選ぶことができるようになってきます。

## ○テキストマイニング（UserLocal テキストマイニング）を活用する

授業前と授業終末で感じ方や考えがどのように変わったかを視覚的にとらえる場合に効果的です。道徳で活用した例では、ある内容項目について事前に自由記述させ、授業終末において再度同じ質問で自由記述をさせます。すると、授業の前後で違いが明確になります。テキストマイニングは傾向を知る場合に大変有効です。道徳だけでなく、学活など使える場面は色々あるはずですよ。



## ○外国語活動、外国語科における ICT

### 【Let's try 2 Unit4 What time is it?】

教材などの動画や音声はクラスの実態と合っていない場合や、クラスの流行の話題と合致していないこともあると思います。これは Let's watch and think を参考に世界のライブ映像が見える世界地図を作成したものです。児童が見たい国をクリックすると、その国のライブ映像が出てくる仕組みです。



### 【Let's try 2 Unit1 Hello, world!】

全員で一緒に音声を聞いても、なかなか一度で理解するのは難しいです。また、教材に示されている国は選択肢が少ないように感じます。そこで、写真のようにいろいろな挨拶が聞けるサイトを児童に提示しました。児童は自分の端末でアクセスし、興味のある挨拶をクリックし、音声を聞くことができました。自分のペースで聞けるというのはとても大切なことです。



### 【音声入力や録画機能を使う】

5年生の学習で、“What would you like?” を練習しました。その後、自分の食べたものを伝えるときには “I would like OO.” と言うことを知りました。すると、単元後半になると、だんだんと “I would you like” という感じに聞こえてきます。ここで音声入力を活用しました。自分の話どおりに文字が出てくるので、どのように聞こえるかを視覚的にも理解できます。文字への慣れ親しみにもつながる活動です。また、自分が話す様子を録画することも効果的です。表現方法を見直す際に、自分の話している様子を見ながら考えることで、声の大きさや話すスピードを調整するなどの思考が生まれます。発表の前などに利用することでよりよい発表につながるのではないのでしょうか。また、単元前半と後半で見比べることで、自分の成長を感じ取ることもできます。